

審判部

①現行の日本卓球ルールに準じて行われます。ただし、一部にローカルルールを適用する。

タイムアウト

- ・団体戦
ベスト8から全ての対戦で適用する。
- ・個人の部（シングルス）
順位決定戦から全ての対戦で適用する。
- ・個人の部（ダブルス）
ベスト8から全ての対戦で適用する。

促進ルール

- ・1ゲームが10分経っても、「双方の得点合計が18点に満たない場合」もしくは「双方の合意があった場合」に適用する。（ストロークカウンターは、審判部から出す）

②「アドバイス」に関して

- ・ベンチ外からのアドバイスは禁止とする。
- ・監督とアドバイザー登録されている方は、必ずIDを着用する。
- ・生徒がアドバイザーに入る場合には、試合ごとにアリーナ入口付近で登録を行い、専用の用紙を受け取る。尚、混雑を防ぐため、試合順①②から登録を行う。その後は、試合が近くなり次第随時行う。そして、各試合が終了するごとに、専用の用紙を返却する。
【第1試合⇒登録⇒第1試合終了⇒返却、第2試合⇒登録⇒第2試合終了⇒返却】

※監督やアドバイザーが試合途中からアドバイザーに入る場合＝生徒は、その場を離れ、用紙を返却する。

※監督やアドバイザーがゲーム間のアドバイスのみを伝える場合＝生徒は、その場を一時的に離れる。

- ・ゲーム間のアドバイスは1分以内とする。審判に入った生徒は、ストップウォッチで1分を計測し、それを過ぎてもアドバイスをしている際には、「タイム」と声をかけて試合に入るように促す。なお、選手はアドバイスをもらうために試合コートから離れてはいけない。

③「サービス」について

- ・疑わしいものについては早めに審判部に声をかける。また、試合の後半で、勝負の駆け引きなどに利用しない。
⇒正しいサービスの出し方については、各チームで再度確認しておく。

④「用具」について

- ・損傷がひどい場合（例：ラバーの中央部に破損があり、打球に影響するなど）には使用を認めない事もある。事前に用具の方を確認しておく。
⇒必要であれば、事前に審判部まで持ってきて頂ければ、判断いたします。

⑤「服装（防寒着も含む）」について

- ・白色基調（試合球と同系色）の服装はご遠慮ください。
⇒もし、白色が基調の服装の場合は、白色以外の布などで覆うなどしてください。

⑥応援について

- ・試合をしている選手が気持ちよく試合を行えるように、マナーのよい応援態度をお願いします。特に、監督、コーチの大き過ぎる声援はバッドマナーに当たります。そして、試合をしている選手がサーブレシーブの構えを始めたら、応援は控えましょう。

試合で正しいサービスを出すために ～ ルールにあったサービスを出せていますか？ ～

公益財団法人 日本卓球協会
ルール・審判委員会 編

近年、小学生や中学生などの大会で、サービスの乱れが指摘されています。注意を受けても正しいサービスが出せない選手がいるとの指摘もあります。

選手の皆さんの努力はもちろん、指導者の皆さんの協力も欠かせないと考え、サービスルールの要点をまとめ、お知らせします。

正しいサービスを身につけるためには、日頃の練習が欠かせません。この文書を参考にして、ルールにあった正しいサービスが出せるように練習して、地域の大会や全国大会に参加しましょう。

次に書いてあるサービスはルールにあっていません（違反サービスです）

サービスを始める時

- しっかり動作が止まっていない
- ボールをのせている手のひらが開いていない
- ボールが手のひらではなく、指にのっている
- ボールの位置がエンドラインの内側にある
(ボールをのせた手や腕はエンドラインの内側に入ってもよいが、ボールは入ってはいけない)
- ボールの位置がプレーイングサーフェス(卓球台の表面)の下にある
(投げ上げる時の反動で、プレーイングサーフェスから、ボールが下がってもいけない)

ボールを投げ上げてから打球する時まで

- ボールを、ほぼ垂直方向に投げ上げられなかった
- 手のひらや指でボールに回転をかけた
- ボールが手のひらから離れたあと、16 cm 以上上がっていない
(審判員はネットの高さ(15.25 cm) を基準に判定します。ネットの高さ以上に投げ上げること)

- 打球までに何かほかのものに触れてしまった
(天井の照明、競技者の体やユニフォームなどに触れた場合)
 - ボールが上がっていく途中で打球した (ぶっつけサービス)
 - ラバーを貼っていない面で打球した
 - ボールをサーバーの体で隠した
 - ボールをダブルスパートナーで隠した
 - ボールを投げ上げたあと、手や腕をすぐに「ボールとネットとの間の空間」から外に出さなかった
 - エンドラインの内側(台の上)で打球した
 - プレーイングサーフェスより下で打球した
- ※サービスが正しいかどうか疑わしいと審判員が判断した場合、その試合で最初の疑問であれば「レット」とコールされ注意が与えられる。明らかな違反サービスは、レットではなく、最初から「フォールト」となり、相手のポイントになります。

サービスを打球した(出した)あと

- サーバー側のコートに触れなかった
- サーバー側のコートに触れたあと、レシーバー側のコートに触れなかった
- ダブルスで、サーバーのコートの左半分にボールが触れた
- ダブルスで、サーバーのコートの右半分にボールが触れたあと、レシーバーのコートの左半分に触れた

ルールにあった、正しいサービスができるように練習しましょう！

以上